

児童発達支援センター「かるがも園」
障害児相談支援事業「かるがも相談支援」

資料9-6

令和6年度事業報告（令和6年4月～令和6年12月）

障害児相談支援事業

相談種別

福祉サービスの利用等に関する相談	54
障害や病状の理解に関する相談	77
健康・医療に関する相談	0
保育・教育に関する相談	13
家族関係・人間関係に関する相談	11
不安解消・情緒不安	0
その他	19
合計	174

相談者

保護者	114
保育園/幼稚園教諭	3
小学校教諭	8
中学校教諭	2
高校	1
関係機関	46
その他	0
合計	174

年齢

0～2才	47
3～5才	21
6～11才	80
12～14才	12
15～17才	6
18才以上	2
不明	6
合計	174

障害種別

発達障害	14
知的障害	9
肢体不自由	2
重症心身障害	1
精神	2
その他	31
不明	115
合計	174

最近の傾向

<就学前児童>

- ・ 保護者の多くは、在籍されている幼稚園や保育園からの紹介や市役所や保健センターで紹介されて相談に来られる方が多い。
- ・ 具体的な相談内容はことばの発達がゆっくりであることを気にされての相談が多く、次に、癩癩がありどう対応したらよいのかわからない、集団行動が難しい、などの内容が多い。
- ・ 低年齢のお子さまは、ほとんどのケースが児童発達支援や訓練等の療育に繋がっている。
- ・ 小児科を受診された際に、発達について相談したことから、医師より連絡をいただき相談に繋がったケースもあった。
- ・ 家庭児童相談室や病院から当センターに連絡があり、療育に繋がるケースもあった。
- ・ 昨年度に引き続き、外国人の相談もあった。

<小学生以上>

- ・ 担任教諭から、発達検査を進められて相談に来られるケースが多い。その中で通常学級に在籍されているが通級指導教室の在籍を検討しているや進学に向けての相談に来られるケースがあった。ご希望があれば、発達相談・検査の内容や結果を担当教諭に保護者同席で伝達する機会も設けている。
- ・ 定期的に発達についての相談や発達検査をしてお子さまの成長や課題を確認したいという問い合わせもあった。
- ・ 保護者の中には学校の担当教諭に勧められたからという理由で相談に来られる方もおられる。家庭では特に困りごとはなく、学校での困りごとなので、よく内容を理解されないまま相談に来られるケースがあった。
- ・ お子さまだけの問題ではなく、家庭に課題がある困難ケースで、特に家庭児童相談室との連携を継続的にとる必要がある相談もあった。
- ・ 小学生・中学生の相談内容に不登校になっているお子さまについての相談が多い。
- ・ 具体的な相談内容は、特に漢字が覚えられない、文章問題が苦手、忘れ物が多い、感情のコントロールが難しいという内容が多い。
- ・ 相談の時期について、長期休暇時は少なく、学校の懇談時期に多かった。
- ・ 中学生以降になると相談件数は少ないが、友だち関係がうまくいかず、自分は発達障害ではないかと言っているとの相談や、保護者がネットで発達障害のチェック項目を確認して、診断名を気にされての相談もあった。

その他

- ・ 今年度より「園庭開放」を一般の方の参加も可能にして開催している。発達など気になることを相談していただける場所として対応していきたい。
- ・ 「発達検査を受けることができる場所を教えてほしい」というお問い合わせが多い。発達検査を受けることができる場所が三田市内で少ない。当センターは一般の発達について相談できる窓口として対応している。その際に必要であれば発達検査を行っている。発達検査を優先してしまうと発達について相談したい方が後回しになってしまうのでお断りをしている。今後の課題である。